

は じ め に

この度、令和7年度における当センターの活動実績をまとめた広島県立総合技術研究所保健環境センター業務年報第34号を発刊する運びとなりました。

当センターでは、保健分野においては、感染症発生动向調査や流行予測調査における病原細菌やウイルス等の検査、大規模食中毒の原因となる病原性大腸菌やノロウイルス等の検査、無承認・無許可医薬品成分検出技術の開発、食品中の残留農薬や食品添加物等の化学物質、遺伝子組換え食品、麻痺性貝毒等に係る試験・研究を行っています。また、新型コロナウイルス感染症への対応の経験を踏まえ、平時から感染症による健康危機に備えるために、令和6年3月に策定した健康危機対処計画（感染症）に基づき、毎年、実践型訓練を実施しています。令和7年度は11月21日に広島県感染症・疾病管理センター（ひろしま CDC）及び保健所等と連携して集合訓練を実施しました。今後も、関係機関と連携して実践型訓練を行い、新たな健康危機に備えていくこととしています。

令和7年4月から、急性呼吸器感染症（ARI）が感染症法上の5類感染症に位置付けられ、新たにARIサーベイランスが全国で開始されました。当センターでは、ARI病原体定点医療機関の患者検体の検査を実施しており、検査結果をひろしま CDC のホームページで公開しています。得られた情報が様々な感染症対策に役立てられるよう、取り組んでいます。

環境分野においては、大気中の有害物質やアスベストのモニタリング調査、微小粒子状物質（PM_{2.5}）の成分分析、環境中の放射能測定、マイクロプラスチック環境調査、鳥インフルエンザの検査、瀬戸内海の水質や干潟の改善に係る調査研究等を実施しています。

近年問題となっている有機フッ素化合物（PFAS）について、令和7年にPFOS及びPFOAが水道法の水質基準項目に追加され（令和8年4月1日施行）、食品衛生法においても、清涼飲料水のうち「ミネラルウォーター類のうち殺菌又は除菌を行うもの」について、PFOS及びPFOAの成分規格が新たに設定されました。保健部門と環境部門が連携してPFASに係る試験検査・調査研究に取り組む等、社会的課題に対応した検査体制の強化に努めています。

また、令和7年の日本の夏の平均気温は、令和5年、令和6年の記録を大幅に上回り、3年連続で最も高い記録となりました。さらに、各地で歴代最高気温が観測され、猛暑日や40℃以上の延べ地点数の記録も更新されました。広島県では、令和3年4月に、当センター内に「ひろしま気候変動適応センター」を設置しており、熱中症対策を始めとする適応策について県民・事業者等の認知度を高め、取組を推進するため、最新の情報を収集・整理して、気候変動適応セミナーの開催等情報発信を行っています。

関係機関の皆様と連携を図りながら、保健衛生・環境分野の科学的・技術的中核機関として県民の皆様の負託に応えることができますよう、センター職員一同、日々精進してまいります。令和7年度の業務年報をぜひ御高覧いただき、引続き、当センターの活動・業務への一層の御支援、御協力をお願いいたします。

令和8年10月

広島県立総合技術研究所保健環境センター
センター長 山根 早百合